

はじめに

本書を手にとっていただきありがとうございます。

「いかに教えたか」から「いかに学んだか」へ。現在、教育は大きな転換期にあります。そして、学びの環境をより良いものにするための書籍や動画、研修など様々な知識獲得の機会もかなり充実してきました。

そのなかで、東京大学 大学総合教育研究センターと一般財団法人日本教育研究イノベーションセンターは、「インタラクティブ・ティーチング」という教え方を学ぶためのオンライン講座を、2014年から2016年にかけて日本語 MOOC プラットフォームである gacco において開講しました。この講座は、東京大学で実施されている大学院生および教職員を対象とした「東京大学フューチャーファカルティプログラム（東大 FFP）¹」の蓄積をもとに構成されており、学生が主体的に学ぶための教育のあり方について、特に「ともに学ぶ」ことに重点をおいたものです。ともすれば、一方向になりがちなオンライン講座ではありますが、学習者も一緒に考え、身につけていく活動を多くとり入れた実践的な内容にしました。8週間というオンライン講座としては長期にわたる講座であったにも関わらず、大学関係者だけでなく初等中等教育関係者や民間企業の方々にも広く受け入れられ、4期のべ約 24,000 名の方々に受講いただくことができました。

このオンライン講座の閉講後もオンライン講座の動画は、東大 FD のウェブサイト²や科学技術振興機構（JST）の運営する JREC-In Portal³において公開され、また、その内容は「インタラクティブ・ティーチング」として河合出版より書籍化されています。この書籍は日本大学教育学会より 2018 年度の JACUE セレクションに選定される榮譽も受けることができました。

しかし、教育の転換期における貢献としては十分ではないと考えた私たちは、インタラクティブ・ティーチングの動画を予習教材として活用した「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー（以下、アカデミー）というブレンド型の体系的研修を開発し、2018 年より提供してきました。

今や、教育に関する知識は、冒頭のとおり書籍や動画など多様な手段によって容易に手に入れることができます。しかし、その「抽象的な」知識を、「じぶんごと」にし、実際に活用していくことは容易ではありません。例えば、レポートなどの評価に用いられるルーブリックを例にとると、ルーブリックに関する知識は簡単に手に入りますし、作成プロセスも非常にシンプルなもので、比較的容易にその概念や構造、使い方などは理解できるでしょう。しかし、概念などを理解する段階と、それを実際に自分の授業において作成し、活用する段階との間には大きなギャップがあることもまた事実なのです。つまり「知っているけど使えない」ということが生じるのです。このギャップをうめようとしたのが「インタラクティブ・ティーチング」アカデミーです。

しかしながら、アカデミーは研修ですので参加しなければその体験はできません。アカデミーに参加できなかった方々にも、この「学んだことをじぶんごとにする」ということの重要性をご理解

1 参考ウェブサイト：<https://utokyofd.com/ffp/about/>

2 参考ウェブサイト：<https://utokyofd.com/>

3 参考ウェブサイト：<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>

いただき、また、「じぶんごとにする」ための手立てを届けたい—その思いを形にしたのが、本書が含まれる3冊の書籍です。これらの書籍に通底するのは、「理論・概念」と「実際」の架橋を目指すという点です。

本書は、レポートやプレゼンテーションなどに適した評価手法であるルーブリックを扱います。ルーブリックとはどういったものなのか、また、どのように作成し、活用すれば良いのかについてとりあげ、多様な実例を紹介します。本書を読むことでルーブリックについて「知っている」だけでなく、実際に「使える」ようになっていただきたいと思います。

本書が想定する読者は、基本的にはオンライン講座と同様に大学や短大、高専などの高等教育機関の教員やこうしたアカデミック・ポストを目指す大学院生ですが、教育方法は学校種や教える内容に限らず普遍的なところも多いことから、小中学校や高等学校など初等中等教育の先生方にも役立つ内容であると考えています。

なお、本書が含まれる3冊の書籍は、アカデミーにおける主要なトピックであった「クラスデザイン」「コースデザイン」「ルーブリック」を扱っており、本書はその第3巻となります。「クラスデザイン」および「コースデザイン」とともに、これらの書籍に込めた私達の思いが伝わり、「学んだことをじぶんごとになりたい」方々のお役に立つと幸いです。

2024年2月
栗田佳代子・中村長史

本書の構成と使い方

本書は5章で構成されています。第1章から順番に読み進んでいただくことを想定していますが、関心のあるところから読むことも可能です。以下に、各章の概略を説明しますので、まず開きたいページを見つける参考としてください。

第1章は、ルーブリックに関する基礎知識や特徴についてとりあげます。また、ルーブリックを含む「評価」そのものについても概要を学びます。

第2章は、ルーブリックの作成についてとりあげます。実際に手順を迫ってルーブリックの作成方法について学んでいきます。

第3章は、ルーブリックの活用方法についてとりあげます。ルーブリックは作成だけでなく、多様な活用方法を知ることによって学生の学びをより効果的に促すことができます。

第4章は、「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー（以下、アカデミー）のルーブリックの研修内容について詳細に解説しています。この研修がどのように行われ、どのように参加者が「じぶんごとに」にしていったのか、を詳細に説明しています。第5章に紹介されている事例の多くは、このアカデミーで作成されたルーブリックです。

第5章は、ルーブリックの事例集です。現在、大学や高校で教鞭をとっている先生方の様々な学問領域および課題で用いられたルーブリックが紹介されています。各事例を直接参考にすることもできますし、数々の工夫を学ぶことができます。

末尾には、本書における参考文献を所収しています。

目次

はじめに 1

本書の構成と使い方 3

第1章 ルーブリックについて知る 6

1.1. ルーブリックの基礎 6

1.2. ルーブリックの特徴 8

1.3. ルーブリック適用におけるメリットと留意点 10

第2章 ルーブリックを作成する 16

2.1. 作成の概要 16

2.2. 課題を決定する 18

2.3. 評価観点を決定する 18

2.4. 評価尺度を決定する 19

2.5. 評価基準を決定する 20

2.6. 点数を配分する 21

2.7. 全体を確認して質を上げる 23

【Tips】 ルーブリック作成における生成 AI の活用 23

第3章 ルーブリックを活用する 26

3.1. 活用方法の概要 26

3.2. 学生が自己評価に使う 27

3.3. 学生が相互評価に使う 30

3.4. 学生がつくる 33

3.5. 複数教員が評価に使う 36

第4章 ルーブリック作成・改善のための対面講座 40

- 4.1. 対面講座の概要 40
- 4.2. 事前学習 41
- 4.3. 対面講座1日目 43
- 4.4. 実践 47
- 4.5. 対面講座2日目 47
- 4.6. 対面講座参加者の反応 50

第5章 ルーブリックの事例をみる 52

- 5.1. 各事例の構成とみかた 52
- 5.2. 事例1 ゼミで使うルーブリック「機械工学ゼミナールⅠ、Ⅱ」 54
- 5.3. 事例2 評価の名称を考える「英語B」 63
- 5.4. 事例3 相互評価ができるようになる「図書館概論」 69
- 5.5. 事例4 客観的な評価のための方策「教養教育：実践知 感性（芸術）「アートはあなたを映す鏡 一見て、考えて、対話する」」 74
- 5.6. 事例5 評価を可視化してモチベーションを上げる「入門観光学実習Ⅳ」 81
- 5.7. 事例6 点数の微調整「化学概論」 95
- 5.8. 事例7 ルーブリックを課題の指針とする「地理A」 101
- 5.9. 事例8 点数の傾斜のつけ方を学ぶ「生物基礎」 108

おわりに 114

執筆者（五十音順） 115